

第145回国際研修を受講して

オボンディ・クリスティーン・アチング・オコス
(ケニア内務省・副大統領府保護局上席補佐官)

研修参加者を代表し、第145回国際研修に参加する機会をいただいたことに対し、心から御礼を申し上げます。

『社会への再統合要因』の強化による犯罪者の効果的な社会復帰」という本研修のテーマが示唆していたところは、研修の内容、参加者の個人発表、国内及び海外講師による講義、関連する刑事司法施設の見学を通じて、明確な意味付けを与えられました。

これにより、私たちは、刑事手続の全容、組織、制度、パートナーシップについて、犯罪者の効果的な社会復帰及び社会への再統合要因の強化に力点を置きつつ、つぶさに学ぶことができました。分科会討議及び全体討議も段取りよく進められ、得るものが大でした。

最新の動向と経験に基づいて、『社会への再統合要因』の強化による犯罪者の効果的な社会復帰」にどのように取り組むか、それぞれの課題を共有するとともに、各国の新たな取り組みについて情報を交換するためのネットワークを構築するという本研修の目的は、十分に達成されたと考えます。

この研修はまさに時宜にかなった有意義なものでした。
私たちはこれからもずっと感謝し続けることでしょう。

研修の折々に、ボランティアの家庭訪問、大相撲観戦、お茶会参加、名跡・旧跡探訪といった行事が組み込まれていました。これらも私たちの心の中にいつまでも残るものとなるでしょう。中でも法務大臣を表敬し、交流の機会をいただいたこと、法務事務次官主催のパーティに御招待いただいたことは、特別な出来事でありました。法務大臣政務官にお越しいただき、私たちのセッションを御覧いただいたことも忘れることはできません。本当に名誉なことであったと思います。

私たちは、また、豊かな文化に根ざす日本ならではの歓迎を受けました。個別の、あるいはグループにおける日々のお互いの触れ合いを通じて、さらには訪問先においても、常にこのような歓迎を受けました。帰国の途に当たり、研修参加者皆に思い起こされるのはほかでもない、日本ならではのおもてなしの心でした。

ここで J I C A (国際協力機構), さらには A C P F (アジア刑政財団) の方々に対し, 多々御支援いただきましたことにつき御礼申し上げます。私たちが今日, この場にいることができますのも, 正に御支援のおかげにほかなりません。

最後にはなりますが, U N A F E I (国連アジア極東犯罪防止研修所) の事務・寮務から給食に携わる皆様の素晴らしいチームワークにも御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

研修参加者を代表いたしまして, 結びの一言として申し上げます。

なお課題山積ではあるとはいえ, 私たちはその困難に立ち向かう力を得ることができました。私たちは, それぞれここで得た豊かな学びの結果を実務に生かすため, まずは推奨される諸施策のうち私たち自身が実施・運用可能なものにつき率先して実践するとともに, この素晴らしい国際研修で得た当該諸施策を所属庁・国に報告するよう努めます。

みなさん, 「犯罪なき繁栄」が世界に広がるよう取り組もうではありませんか。

U N A F E I に幸あれ

A C P F に幸あれ

J I C A に幸あれ

どうもありがとうございました。